

第6回日中クロスオーバーサイエンスシンポジウム

(中国・鄭州大学, 2008年10月24日~27日)

神部 順子

このシンポジウムでは日本と諸外国との間の学術交流を行いながら、核物理学、生物物理学、放射線生物学、構造生物学、化学反応、錯体化学、分光学、理論・計算化学を主題としつつ、生体分子科学に関する新しい領域の開拓を目指している。会場は中国と茨城大学を隔年で交代で開催されており、今回は6回目、中国の鄭州大学で開催された。鄭州は河南省の省都で、黄河の南に位置し、少林寺でも有名な都市である。中国で開催される際には、各地域を巡回していくことで中国の科学のレベルアップを図る意図があると聞いている。今回は25の研究報告があり、それぞれについて活発な議論が行われた。内容はまさにクロスオーバーサイエンスであり、多岐に渡っていた。

参加者は招待講演として「Visualization of Aerosol Using a Digital Camera」というタイトルで話した。2008年の北京オリンピックでも注目されたように、中国各都市の大気汚染は複雑化し、かつ広域化している。今回の会場であった鄭州も例外ではない。シンポジウムの開催期間中に自ら計測を行っていたのであるが、どうも洛陽

からの汚染が流れ込んでいるようであった。内容が大気汚染を簡便に計測する解析法であったので、中国の研究者からはその詳細な方法について多くの質問を受けた。また、日本の研究者からはこれからの科学が目指す方向として、生活者の視点で自らの環境を見守っていく重要性についてコメントを頂戴した。実は、今回の発表内容は、参加者が2007年3月北京、2008年4月天津での計測にご協力いただいた中国の研究者の方に対して、現地での研究成果の報告を行うことを兼ねていた。しかし、残念ながら詳細に内容を述べるには時間が不足していた。このシンポジウム用に英語で作成した論文を準備し、配布するべきだったと反省した。

今後、本研究について北京師範大学と共同研究することの可能性を提案していただき、参加者としてはとても充実したシンポジウムとなった。さらには、中国の各大学での優秀な若手（大学院生や助教クラス）と英語でさまざまな内容についてディスカッションできたことも大きな収穫であった。